

作物名：つるむらさき

病害虫名：腐敗病（病原：*Pythium aphanidermatum*）



地際部の腐敗



葉の黒色病斑



白色綿毛状菌糸

1 被害の特徴と診断のポイント

- ・茎、葉を侵す。
- ・地際近くの茎葉にはじめ水浸状の病斑が形成され、やがて黒色の腐敗となり周囲に拡大する。
- ・腐敗が進むにつれて株全体が萎凋する。
- ・多湿条件では、病斑部に白色綿毛状の菌糸が形成される。

2 伝染源及び伝染方法

- ・被害植物の組織上に卵胞子を形成し、残渣とともに土壌中に残存し、伝染源となる。
- ・罹病組織表面に形成される遊走子のうから遊走子が放出され、雨水や灌水により移動し二次伝染する。

3 発病・伝染好適条件

- ・本病菌は卵菌類に属し、遊走子と卵胞子を形成する。
- ・菌の生育温度は10～40℃で、適温は37℃と高温を好むため、高温時に台風や大雨に遭うと、その直後にまん延しやすい。

4 防除対策

- ・発病株は伝染源となるので、早期に抜き取って処分する。
- ・水はけの悪い圃場では、明渠の設置や高うねにするなど排水対策を講じる。

5 出典

- (1) 参考文献：日本植物病害大辞典（全国農村教育協会）
- (2) 写真：宮城県病害虫防除所撮影